

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価（3月28日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	情報化やグローバル化が進展する社会を生き抜く資質・能力を育成するために、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、それらを活用する能力の向上を図る。	①生徒の更なる主体的・対話的な深い学びの実現を目指す。 ②グローバル教育研究推進校として組織的に授業改善に取り組む。 ③新しいカリキュラムが効果的に運用されるよう、準備・検討を進める。 ④情報化・国際化社会において、自分の考えを世界に発信し積極的に活躍する人材を育成する。	①生徒が主体となって、考えを深めることのできるような課題を定期的に与え、学習活動の習慣化を目指す。 ②研究推進校として具体的な目標(テーマ)を設定し授業研究に取り組む。 ③本校として望ましい生徒像に向けて効果的にカリキュラムが運用されるよう検討する。 ④ICTの一層の導入を進め、生徒の表現力とコミュニケーション能力の向上を図る。	①定期試験や特に外部試験に生徒の学力の伸長が見られたか。 ②公開研究授業等を通して目標に向けた取り組みが見られたか。 ③生徒の特性や地域・学校等の実情に合わせて実施に向けた調整をどの程度進めることができたか。 ④生徒が積極的にICTを活用し主体的学びを実現、表現する等、行動の変化がみられたか。	①様々な教科において課題の取組等を通し生徒が自らを見つめ考えを深めるような学習活動が行われた。 ②年間を通した目標をテーマとして設定し今年度も学校全体として授業研究を行った。 ③全校として新カリキュラム開始に向けた準備を進め、現行カリキュラムにはより現状に即した改善を加えた。 ④ICT活用も授業研究の目標の1つとし様々な教科で活用の取組がみられた。	①定期試験の結果からは今後もより一層学習の習慣化・家庭学習の定着を目指す必要が感じられる。 ②研究授業は校内公開に留まったがより研究が進むよう改善を進めた。 ③新カリキュラムについては職員で目標や情報を共有しながら準備を進めた。来年度の円滑なスタートを目指したい。 ④ICT活用の積極的活用が徐々に進んだ。より広範囲の様々な場面でのICT活用が求められる。	今年度は9月にオンライン授業が行われたが、コロナが収束しても、対面にすべて戻るのではなく、オンライン授業と対面授業のハイブリットの形で進めていくべきである。 魅力と特色づくりアンケートからは85%の生徒が、授業が役に立っていると回答している。すばらしいことだと思う。 伊志田高校の生徒はおとなしいと言われることが多く、学習意欲の低下にもつながるのではないかと思われたが、2年生の模擬試験で学力向上が見られたということも評価できる。	①非常時の双方向型オンライン授業など、昨年度と比べ職員間や家庭での定着が一層進んだ。今後はオンライン授業を非常時の対面授業の代替のみでなく学校運営協議会でも話題となったオンラインの長所を活かした活用を深い学びに繋げたい。 ②外部試験に弱い生徒が多い点は生徒の志望進路実現にも大きく関係し、重要な課題である。更なる授業研究を推進していく必要がある。 ③議論を重ね編成した教育課程を新年度よりどのように活用し授業を展開していくかが大きな課題である。 ④今年度もコロナ禍での財政支援によりICT機材の更なる充実が図られた。コロナ禍においてもICT活用により他校とのディベート交流会等を実施することができた。	①来年度、生徒の一人一台端末購入初年度という大きな変化にあたるが、この機会を十分に活かし、新たな側面から生徒の主体的な学びや学力の伸長に繋がるように、職員全体で協力して伊志田高校の生徒を育てていきたい。 ②引き続き、新たな目標を再設定し、学校全体として授業研究を推進していく。グループ間、教科間で連携し、どのような場面でも力を発揮できるような生徒の育成を目指したい。 ③今後運用にあたって、よりよいものになるよう検討を継続していきたい。 ④コロナ禍でできない、のではなく、制限下であっても可能な道を少しずつ実現しつつある。今後も新しいツールの活用等を通し、学習活動の質や手法の工夫を推進する必要がある。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	生徒一人ひとりの個性、学校や家庭、地域で生徒を取り巻く環境を踏まえたきめ細かな生徒指導・支援を行う。	①生徒の生活習慣の確立や規範意識の向上に向け、継続的な指導を行う。 ②交通安全や薬物乱用防止、インターネット等の使用に対する意識改善に取り組む。 ③生徒が安全・安心して学習に取り組むことができる環境の整備に取り組む。 ④学校行事を通じて生徒の主体性、積極性を育成する。 ⑤更なる部活動の活性化を図る。	①一人ひとりを観察・対応し、いじめ等の未然防止を図る。 ②本校職員や外部専門家による講話・講演会、さらに必要に応じて外部組織との連携を行う。 ③ケース会議や関係者に対する講習会等を実施する。 ④コロナ禍でもできる行事を生徒とともに模索し、規模を縮小しても行う。 ⑤部活動説明会、文化祭などを通じて、部活動をアピールし加入率を上げる。	①いじめ防止に向けた取り組みを推進し、職員全体で早期発見、未然防止を図ることができたか。 ②生徒指導の本質的な研究や有効な職員研修を行えたか。 ③適切にケース会議を開催できたか。 ④昨年以上の行事が実施できたか。 ⑤昨年以上に部活動加入率を上昇させることができたか。	①いじめ防止に向けたアンケートを定期的に行い生徒の状況の把握を行った。 ②講話・講演会の実施ができず外部組織との連携も困難であったため、資料などの共有を行った。 ③年間を通してケース会議を行うことができた。 ④コロナ禍において体育部門と球技大会は実施できたが、文化部門は中止となった。 ⑤コロナの影響とグラウンドなどの施設が不十分な状況だったが、例年並みの活動が行われた。	①一人ひとり丁寧な対応と日常から積極的かつ注意深い声掛けを行う必要がある。 ②オンラインでの講演会など検討していきたい。 ③SC等と連携を密にして、生徒や保護者との連携をスムーズに行いたい。 ④全校での行事が出来ない場合もあるかもしれないが、学年ごとの行事を設けるなどして、学校の活性化に努める。 ⑤今後もグラウンド、テニスコートが使えない状況が続くが、外部施設などをうまく活用し、活動を確保する。	コロナ禍の中でも、学校が工夫して苦勞しているのがよく理解できた。 魅力と特色づくりアンケートにおいて、生徒の68%が満足し、82%が夢や希望を持てたと回答しています。十分な成果だと思ふ。 中学校でも非行よりも家庭的な問題と向き合う生徒が増え、学校でも社会でも、少数派に目を向け、一人ひとりに対応する傾向が高まっている。 コロナ禍で、生徒、教職員とも健康が心配である。特に精神面のケアを心掛けてほしい。	①いじめ防止に向けたアンケートを定期的に行い生徒の状況などを把握し、生徒の状況に応じて対応した。健康観察を通して生徒の状況の把握を行った。 ②生徒に向けた講話・講演会を実施することができなかった。オンラインなどで対応することが課題である。 ③SCとの連携をとることができ、ケース会議を定期的に行うことができた。 ④今年度体育部門はどうか実施できたが、文化部門は2年続けて中止となった。実施方法や伝統が後輩に引き継がれない心配があり、過去の経験がある教員が中心となる生徒を例年以上にサポートする必要がある。 ⑤部活動に参加する生徒は部活動により違いはあるが、運動部を中心に全体的に減少する傾向にある。	①いじめをなくす環境の整備と教育相談の充実をはかるとともに、生徒指導の本質的な研修を実施していきたい。 ②制限がかかっても講話・講演会を行える方法を考え対応する。 ③今後も定期的にケース会議を実施するためにSCや養護教諭などと連携し生徒の支援体制を整える。 ④学校全体の行事が中止となる状況だとしても、生徒自身でできる行事を考えさせ、伝統を踏まえつつ現生徒のオリジナリティを引き出すチャンスでもある。できることを模索する中で生徒の自主性、積極性をひきだす方法を考える。 ⑤引き続き施設が不十分な部活は学校全体でサポートしていく必要がある。また、各部活動も生徒のニーズを踏まえて、生徒主体の活動を目指し、部員数確保に努めていく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生涯にわたって自己実現できるようにキャリア教育を充実させ、その上で、高校卒業後の進路指導・支援を行う。	①グローバル教育研究推進校の取組を通じて、生涯を見通した「生き方・あり方」ができるような指導・支援を行う。 ②キャリア・パスポートを活用して進路指導教育を充実させていく。 ③生徒の進路実現の一助として、各種の英語外部試験の受験機会を設ける。	①総合的な探究の時間等でThink Globally, Act Locallyの取組を行うとともに生徒が発表する機会を設ける。 ②各種ガイダンスや大学模擬授業等を行い、生徒の卒業後の進路選択を支援していく。 ③外部英語4技能試験を全学年で実施する。	①総合的な探究の時間の発表内容が充実していたか。さらに、生徒がSDGsの視点も含めてその内容を振り返ることができたか。 ②キャリア・パスポートを活用して将来の希望や適性に合わせた進路選択ができたか。 ③英語4技能試験を全学年で実施できたか。	①SDGsの環境問題について調べ学習を行い、身近な問題として捉えることができた。 ②感性症対策を行いながらリモート型のガイダンスや大学模擬授業を実施することができた。 ③全学年で外部4技能試験を実施できた。	①調べたことを元にして、自分でもできる対策を考え発表できるようにしたい。 ②ガイダンス等においてキャリア・パスポートの活用が十分できなかった。 ③外部4技能試験のスコアの向上できるよう教科・学年の指導を連携させていく必要がある。	魅力と特色づくりアンケートにおいて、82%が夢や希望を持てたと回答していることから、希望をいかに進路指導を継続してほしい。 会社の中でも多様性が認められてきていて、社会全体の流れだと感じる。社会の流れの基礎は中学校・高校にある。その中で一人ひとりの能力を伸ばすことは、重要と考える。	①SDGs17の目標のうちの環境にかかわることに絞り、調べ学習を行った。導入、調べ学習、クラス発表、最後の学年発表と一連の流れを通して、SDGsについて理解を深めることができた。 生徒自身の意見や個人でできる対策を発表に加えていくことができるようにしたい。 ②当初計画した対面型のガイダンス等の実施はできなかったが双方向型オンラインの活用で生徒の将来の希望や進路選択の醸成を図ることができた。 ③外部4技能試験受検は、校内での定着ができていないが、特定の技能試験に偏らず多くの受験機会を作っていく必要がある。	①調べ学習の導入の時に、班員の意見や具体的な環境問題への対応策をまとめるスライドを作るように指導する。また、学校外でどのような環境保護活動が行われているかを知ることで、生徒自身に何ができるかを考えるきっかけを与えたい。 ②キャリア・パスポートの運用を改善し、対面型や双方向型オンラインなど多くの手法を取り入れながら、生徒の適性に合わせた進路指導を充実させていきたい。 ③生徒の一人一台端末の導入に伴い、これらの機器の導入を活用し、外部4技能試験の向上を図っていきたい。
4	地域等との協働	学校運営協議会や保護者、地域の関連機関等と連携し、学校の教育活動をさらに充実させる。	①ホームページの更新頻度を高め、伊志田高校の教育活動を広く伝えていく。 ②地域との連携を密にし、地域の教育力を本校の教育活動に活かす。 ③学校運営協議会の意見を教育活動に反映する。	①ICTの活用等で広く広報活動ができるようにし、引き続き生徒主体の情報発信を進めていく。 ②オンライン等感染予防を鑑み方法で実施できるか考える。 ③多くのご意見をいただけるよう、情報提供の方法や内容を工夫する。	①本校の教育活動や入学者選抜等の情報を、中学校関係者や本校の生徒保護者等可能な限り広く分かりやすく発信できたか。 ②地域の連携を通じて、生徒の国際理解への関心が高まったか。 ③委員の方が本校の教育活動について把握しやすかったか。	①ホームページの更新頻度を高めることができた。 ②感染対策を十分講じたうえで交流を図り、生徒の国際理解への関心を高めた。 ③書面開催や公開研究授業の折に、ご意見をいただくことができた。	①ICTの活用により、より広範囲に広報できる方法を考える余地がある。 ②海外との行き来による行事はできなかったが、それらが途絶えないように資料等を残していく必要がある。 ③書面では伝わらないことが多いので、状況に応じて直接お会いする必要がある。	スピーチコンテストの発表者に、地元東成瀬の生徒の名前を見つけたのも、うれしく思った。学校の情報発信により、地域住民も教育活動により関心が高めることができると考える。今後も学校の教育活動を広く発信してほしい。	①ホームページを通して、行事や部活動における生徒の活動を伝えることができた。また、生徒主体の学校説明会は中学生目線で本校をアピールすることができた。 ②国際理解講演会や東海大学留学生交流会は国際的な視野を広げることができた。特に、後者は生徒が生き生きと英語を話し、同世代の留学生から刺激を受けた。ゆくゆくは生徒主体で行事を進めたい。 ③昨今の感染状況のなか、学校運営協議会の意見を反映することができた。	①コロナ禍が続くことを鑑み、ホームページ・ICT等をより活用した広報活動を考えたい。生徒主体の説明会もより生徒の意見を取り入れ、より分かりやすい広報を目指す。 ②引き続き感染対策を講じ、対面で実施したい。 ③感染状況を踏まえ、直接会議を持ち、学校経営の在り方について深くご意見をいただく機会を設けたい。また、オンライン会議なども取り入れ、直接対話する手立てを充実させたい。
5	学校管理 学校運営	事故・不祥事の防止に努めるとともに、生徒が安心して学習や様々な活動に取り組めるように、安全な環境を整備・維持する。	①防災訓練などを通し生徒が災害から自らのみならず他者の生命を守るために必要な能力や態度を育成する。 ②施設・設備等の点検と整備を進める。 ③不祥事防止に努める。	①新しい生活様式に基づいた防災訓練を2回、DIG研修を1回実施する。 ②防災委員をとおして、生徒主体の防災活動を組織する。 ③施設・設備等の点検と整備を行い非常用物資の備蓄管理を進める。 ④生徒が主体となって清掃活動に取り組ませる。 ⑤事故防止会議等の実施や同僚力の向上を図る。	①防災計画の充実が図れたか。また、防災委員が主体となつた防災活動がなされたか。新型コロナウイルス感染防止の観点から実施できたか。 ②施設・設備等の点検と非常用物資の備蓄管理を計画的に進められたか。 ③教育活動を行うのにふさわしい環境整備ができたか。 ④効果的な研修、会議を実施できたか。	①第一回の防災訓練が緊急事態宣言と重なり実施することができなかった。 ②防災用品の充実を図ることができた。また、仮校舎での防災備蓄用品の保管方法を講じることができた。 ③時差通学で生まれた時間などを有効に活用し、研修、会議を行うことができた。	①防災訓練の予備日を設けて、臨機応変に対応できるようにする。 ②次年度、ホームルーム校舎が仮校舎から本校舎に移るので、防災備蓄用品の保管場所を再検討する。 ③より効果的に研修や会議を行うことと、職場全体の同僚力の向上を図りたい。	炊き出し訓練が昨年に引き続き中止になったことは残念である。耐震工事が続き、避難方法の変更や防災備蓄用品の保管場所の検討など、災害時に慌てないように安全、安心を重視した計画、訓練をお願いしたい。	①緊急事態宣言が発生した場合の学校生活での防災訓練の在り方をグループで共有することができた。 ②防災備蓄用品を配備することができた。備蓄倉庫が満杯の状態なので、その内容物の保管場所の確保が急務である。 ③グループごとに不祥事防止会議を実施することで、少人数となり、不祥事を自分ごととしてより活発な意見交換をすることができた。	①Google Meetなどのツールを使い、生徒が登校していなくても防災について議論できる場を設ける。 ②通常の防災訓練だけでなく、避難先で新型コロナウイルスの感染を拡散させないような避難時訓練を企画し、運営したい。 ③次年度は北棟の耐震補強工事がはじまるので生徒の動線が今までと異なる。それに応じた避難経路を考え、避難訓練を実施する。 ④不祥事防止に対する職員各自のより一層の意識向上と、不祥事にさせないきめ細かな注意喚起や同僚力の向上に努める。